

希望の子

小林市立南小学校 校長通信
令和3年12月7日 第22号 (文責 校長 吉井秀一)
TEL: (0984) 23-3520 E-mail:1403eb@miyazaki-c.ed.jp

二年前の今頃は、「中国で原因不明の肺炎が流行し始めたらしい」とのニュースが緊迫感もなく報道されていましたが、年が明けた一月十六日に初めて日本で確認され、二月には九州にまで拡大。その後、日本のみならず世界中を混乱させたウイルスに人間の知能を持って立ち向かうこと二年…。子どもたちの頃見たヒーロー番組でも、やつつけたと思つた後に向かってくる敵に嫌気がさしたものです。さて、歴史上まれに見る人類の強敵はこの後、どう動くのか。油断は禁物です。

前回の通信で、「制限など掛けたらタブレットの機能が生かされない。」との大学の先生の話を取り上げましたが、実は私も同じ意見です。もちろん子どもが取り扱いますから無制限というわけにはいかないでしょうが、子どもが調べたいときに調べ、記録したいときに記録、そしてそれらが個人の学びや友だちとの学び合いに結びつけば、長い間黒板とチョークで指導してきた学校の姿も時代に合う方向へと変化していくでしょう。

とかくインターネット関連は教育界では心配のタネです。ゲームにはまり込む依存症や昼夜逆転による不登校や不適応、前回取り上げたSNSによるいじめなどなど…。しかし、まだことばも発しない幼い子がスマホの画面を人さし指でスライドさせる時代です。もう取り上げることは無理です。

私たち今の大人が最も自賞しておかなければならぬことは、「今の子どもたちを取り巻く環境は、自分が子どもだった時代とは違う。」ということです。私のようなおじいちゃん世代はもちろん、お父さん、お母さんが子どもだった時代とも違っているのです。今から20年前でさえ、上うやく携帯電話にカメラの機能が付いた頃です。子どもの安全のためなら公衆電話で済むし、街中なら公衆電話がその機能を果たしていくました。しかし今、そんなことを並べて「本当に子どもに必要なのか?」という立場で議論しても勝算はないでしょう。

子どもたちは、私たちが経験していないとても魅力的な物を手にし、「現実」と「通信」の中の二つの世界に人間関係をもっています。だからこそ新しい教育が必要なのです。

得力のある話に理解はしたのもたちを指導するのは無理だと自覚させられました。

話では、「子どもたちはスマホ、ゲームを制限しようと近づいてくる大人は最初から拒否します。」「時間を決めるなどの約束事を決めて、大人が責任をもってそれを守らせることができなければ無駄です。」…これでは手の打ちようがありません。

しかし、子どもが大人を信頼して自分の生活をコントロールする方向へ導くための方法も提案がありました。それは、「大人もその世界に興味をもつて、できれば一緒にすること」だそうです。

相手を制するにはまずは相手を知れということですね。子どものもう一つの世界を知るために、私たち大人がまずは学習しましょう。

ナガラヤの世界

ぜひ講演会へ 既に御案内しておりますが、12月15日（水）「スマホ時代の子どもたちのために」と題して、兵庫県立大学竹内和雄教授の講演会を開催します。なかなか身近に聞く機会のない講演会です。たくさんのお申込をお待ちしております。

第19回「新聞感想文コンクール」佳作入賞

既に新聞にも掲載されましたが、今年の「新聞感想文コンクール」で本校の4年生
園田晴人さんが佳作に選ばれました。小中学校合わせて1192点の応募作品の中から、
小中学校それぞれ6点しか入賞できない大変レベルの高いコンクールです。

「新聞」とのかかわりをわかりやすくまとめ、自分の考えをじょうずに整理して表現しているすばらしい作文です。

「社会や地域の出来事に关心があるか。」というのは、学校では「学びたい気持ち」を計る指標のひとつになっています。今回、新聞に目を向けた作文が入賞したことは、学校としても大変うれしいことです。

今回の入賞も南小学校みんなで喜び、みんなに広げていきたいと思います。



見てよかったです。新しい発見が出来ました。
見出しを読んだだけでは、だいたい何の記事か
わからし、ニュースだけではなく、テレビ番
組や地元宮崎のこと、天気・スポーツなどた
くさんのじょうほうを知ることがで、乙新聞
はとてもおすすめです。いろいろなことを探知
ることが好き、おもしろい新聞がほしいは好き
になりました。ぼくはこれからも新聞を見て
たくさんのことを探知りたいです。乙明日は
と人な内容が新聞にのっており石かなか
です。

読む二とかで王るよニになリました。読みな
い漢字や意味がわからぬい言葉もたくさんあ
ったので辞典をひいたり、インタリ不ツトで
調べたり、両親に聞いたりして読みました。
新聞にはいろいろなこゝが書いてあります、だれ
かみても分かりやすくいろいろなじよヲほう
かさればにまとまつていました。例えば重要
なことやみんなに伝えたいことは大きな字で
書いてあります、写真もありました。事実を
分かりやすく正がくに伝えるために工夫して
書いてあります。新聞は真実
を伝えなければいけないので、明らかにニユーニ
スだけではなく、悲しくつらいニュースの記
事ものフエリマス。最近では、新がたコロナ
ウイルスや大雨など災害のニュースの記事を
よく目にします。で王れば明白にニュースや
うれしり出来事がたくさん新聞にのります。う
なると、ぼくはうれしいなあと思ひます。
今まで新聞は文字も多いし、なかなか力読む
ことは思ひなかつたけれど思ひまつて読んじ
ます。